

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年11月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103839
法人名	社会福祉法人 中江報徳園
事業所名	グループホーム サンひまわり
所在地	鹿児島県鹿児島市下伊敷一丁目44番11号 (電話) 099-218-2045
自己評価作成日	令和2年10月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○『知恩報徳』を理念に掲げ、入居者様が明るく豊かな生活が送れますように、職員一同、その恩に感謝し社会への貢献を目指しています。

○国道3号線近くで交通の便もよく、利用しやすい場所に開設されています。近隣には玉江小学校や県立短大もあり、静寂な地域に立地し、住環境に適しています。

○玉江校区コミュニティ協議会の一員として、公民館や近隣の学校行事へと積極的に参加し、入居者様や職員と地域住民との交流が図られています。

○常勤の看護師を設置し、24時間の医療連携体制をとっており、日常の健康管理においても安心して施設生活を送って頂けます。

○職員は法人内での勉強会、外部の研修にも積極的に参加し、認知症ケアだけでなく、様々な分野の知識を深め、サービスの質の向上に努めています。

○法人内の管理栄養士や理学療法士などの専門職とも連携することで、栄養バランスのとれた季節の食材を活かした食事の提供、生活動作機能の向上に努め、入居者様が意欲的な生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、校区コミュニティ協議会の一員として積極的に地域行事等に参加している。今年、新型コロナウイルス感染防止の為、地域行事が中止され、事業所も面会・外出の制限を行い、地域との交流が困難な状況である。近隣の散歩やおやつの買い物、ベランダに出て外気浴を楽しみ、通行中の住民に挨拶する等、日常の生活の中で機会をとらえて地域と交流できるように努めている。

・事業所に看護師を配置し、日々の健康管理や系列の協力医療機関との医療連携等を図り、法人内の専門職の協力を得て、本人・家族が安心して過ごせる生活環境となっている。

・管理者は、分担業務の見直しや法人内で食材発注をまとめて購入してもらえるようにする等、職員が支援に専念できるよう業務改善に積極的に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設玄関、事務所内に理念を掲げ、いつでも目にできるようにし、職員間で注意、声かけしながら、共有、実践している。	法人の理念と事業所独自の理念を玄関・事務所内に掲示し、毎日朝礼時に唱和し共有している。ケアの振り返りについては年度末に話し合い、支援に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入することで地域行事に参加し、交流している。地域コミュニティ協議会部員としても事業所として活動している。	町内会に加入している。コロナウイルス感染防止の為、地域行事が中止状況であるが資料を届けたりしている。利用者は近隣の散歩やベランダから近隣の方に挨拶をしたりして地域との交流につなげている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の民生委員、町内会役員とも連携しており、困りごとの共有、問題解決に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、利用者様、家族、地域住民、近隣の事業所等々に参加していただき、サービス状況の報告、意見交換をし、サービスの向上に役立てている。	定期的に運営推進会議を開催し、事業所の状況報告と意見交換を実施してきたが、コロナウイルス感染防止の為、事業所の資料をお届けして個別に情報交換等を行い、意見は運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町村の長寿支援課、介護福祉課による会議や研修に積極的に参加し、協力関係を作っている。</p>	<p>市の担当者とは、電話や出向いで報告等を行い、連携を密に取っている。今年は会議・研修の開催ができないので、協議会にウェブ会議で参加し連携を取っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人にて身体拘束適正化委員会を設立、3ヶ月に1回、会議をおこなっている。また、定期的に身体拘束廃止に関する勉強会や研修に参加し、職員の意識向上に取り組んでいる。</p>	<p>法人で指針を作成し、3ヶ月毎に委員会を実施している。年2回、事例検討等を中心に研修会を実施し、不適切な言葉は職員間で注意し合っている。日中の玄関の施錠はせず、外出希望の利用者には散歩等の対応をする等、行動を制限しないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内外の研修や勉強会に参加、参加した職員が全職員に資料の回覧、申し送りをおこない、意識向上に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修会や勉強会に定期的に参加し、学びの継続を行なっている。利用者様には個々に必要な事を検討し、提案している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には管理者が内容の説明を行ない、納得し、同意を得た上で署名を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、毎年無記名のアンケート実施し、内容や要望への対応も公表している。</p>	<p>利用者には、日常の会話の中で要望等を聞いている。家族には、年1回のアンケートや家族会・面会時に要望等を聞いて対応している。コロナウイルス感染防止の為、面会は窓越しの面会や電話で話をするなど、個々に応じた方法を工夫している。風呂好きで「浴槽につかりたい」との要望に運営に反映させるように努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月、分科会等で意見を出し合い、皆で検討して運営に反映させている。</p>	<p>日々の支援中や分科会等で意見を聞いている。個人面談も年1回実施している。食材の買い出し時間を、法人内の事業所でまとめて食材を購入し配達してもらえようになり、利用者とのかわる時間が増えた等、職員の見解を運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	各自、目標管理票を作成し、目標へ向けて年間計画を立てて取り組んでいる。		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	毎年度初めに内外部の研修計画を作成し、随時案内、参加を促している。分科会、カンファレンス等もおこなっている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会や福祉フェスタなどの集まりへ参加することで、交流の機会を持ち、情報共有することで様々な知識を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の日常を気に掛けるようにし、腰を低く、話を傾聴することでその方の思いを知り、信頼関係を築いていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、家族への利用者の近況報告の中で生活歴、心動状況を把握し、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、医療機関やケアマネージャー等から話を聞き、カンファレンスを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を通して洗濯物をたたむ、食事の盛り付けなど本人のできる事をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ひまわり便りにてご家族に近況報告している。又、家族と一緒にソーメン流しに行くなど行事への家族参加していただいている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は、談話ができるように居室を提供している。家族の協力により外泊もされている。	コロナウイルス感染防止の為に面会を窓越しやガラス越しに行っている。電話の取次ぎや手紙も支援している。医療機関受診は家族が同行し、自宅訪問に職員が行くこともある。馴染みの人・場所の関係が途切れないように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク等を通じて本人の個性、性格を把握、集団生活が楽しく過ごせるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡を取り、入所先、入院先の担当者に情報提供などフォローをおこなっている。入院時は経過を把握し、退院時に困らないように再入所の調整などの支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中でコミュニケーションを取り、会話の中から思いや要望の把握に努めている。意思伝達が困難な入居者様の場合は家族の協力を頂き、思いを汲み取れるよう努めている。	お茶の時間や入浴時・夜勤帯の時間に懇談している。情報の共有は朝の申し送り時に行っている。思いや意向の把握が困難な場合は家族から聞くこともある。職員間で情報を交換し仕草や表情から推測し、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談で生活歴や利用者様の経過等の情報提供でその人らしい生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活とできる事を把握し、無理をせずに生活できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から要望を聴き、ニーズにあったサービスを提供できるように職員間でカンファレンスし、介護計画に反映させるようにしている。	本人や家族から要望や思いを聞いている。主治医との意見を基に担当者会議で検討し現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月、見直しは6ヶ月で行っており、状況変化に応じて見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看介護記録に細やかな観察や対応の記録を行なっている。個別の情報は職員全員が確認できるよう介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や本人の必要な物の買い物支援など、ご家族と連携しながら、その都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流を持ちながら行事に参加し、安心して生活できるよう、警察署、消防署、民生委員等と連携をとっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望される医療を受けられるよう、支援している。基本的には家族同行になっているが不可能な場合は看護師が同行している。また医科往診も受け入れている。	契約時に本人・家族の希望するかかりつけ医に、家族の協力も得て受診支援している。協力医からの月1回の訪問診療や24時間医療連携、事業所看護師による健康管理の実施により、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の状態を把握し、体調変化や気づきの情報を看介護職員で共有し、早期発見、早期受診へ繋げている。看護師を配置しており、医師へ報告し、指示を受けられるよう連携し、協働できている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は協力病院の担当者と情報交換や相談に努めている。入院中の状態を把握し、早期退院できるように、医療機関との協働を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時、ご家族様に重度化や終末期に向けた方針の説明を行っている。協力病院とも連携を取りながら終末期には看取りも実施し、全職員で支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に重度化の場合の対応について説明し同意書を得ている。重度化の場合に、管理者が立ち会い主治医から家族に病状を説明し、家族の意向を確認している。特別養護老人ホームや老人保健施設等の選択肢についても説明している。家族の意向に沿って支援に取り組み、看取り介護の事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故、急変時の対応マニュアルを掲示し、毎年救命救急法や応急手当の研修に参加し、職員全員が対応できるようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月1度の防災訓練を実施し、火災、風水害、地震発生時の対応についても訓練を行っている。地域の防災担当者とも連携を取っている。</p>	<p>年2回の避難訓練を夜間想定で実施し、消防署の立ち合いが1回ある。水害時等の垂直避難についても検討している。町内会長への協力依頼及び近隣住民に回覧板で協力を依頼する計画である。非常用の備蓄は、水・米・食材の3日分を確保し、カセットコンロも準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>朝礼時に接遇スローガンである『四つのこころ』を読み上げ、自己意識の再確認をおこなっている。職員が研修に参加し、全体で共有する時間も作っている。</p>	<p>接遇基本のスローガンを朝礼時に唱和し確認している。権利擁護等について外部講師の講演会に参加し全職員で共有している。法人での研修会にも参加している。さん付けで呼びかけし、抑圧的や馴れ馴れしい言葉かけはしない。本人が安心するような言葉かけを行い、排泄の失敗時はさり気なく支援し、人格の尊重・プライバシーの確保に努めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者様が意見や悩みを表明しやすいよう、日常的に気かけ、信頼関係を培っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者様の気持ちや意思を尊重し、押しつけや否定をしないよう支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>更衣の際はご本人の意見を聞きながら着たい物を選択している。起床時に顔を洗う、髪を整えられるように声かけおこなっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>簡単な食事の盛り付けを手伝ってもらうことで食事に興味を持っていただけるように支援している。混ぜるだけの調理</p>	<p>献立は栄養士が作成し調理担当職員がいる。利用者ももやしの根切り等、下ごしらえや盛り付けを一緒にしている。食事形態は個々に合わせている。誕生会のケーキや季節の行事食・おせち料理や外注の弁当等で食事を楽しめるよう工夫している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>昼食と夕食を栄養士の作成したバランスのとれた献立をもとに提供している。好みに合わせ、苦手な食材は代替の栄養食を提供する。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っていただくよう促す。最後に職員が口腔内に食べ物や薬が残っていないか確認をおこなっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>それぞれの排泄パターンを把握し、一定時間でトイレへの声かけ案内をおこなっている。過介護にならないよう、個人個人出来る事は自分でおこなえるように支援している。</p>	<p>日中はトイレでの排泄を基本に支援し、個々のパターンを把握し時間を見ての声掛けや見守り・確認をしている。夜間は、身体状況等に応じて、オムツやポータブルトイレを使用する利用者もいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄を記録に残し、主治医の指示をもとに下剤も服用している。ご本人にも水分摂取や運動をして頂くよう排泄に繋がるように協力をもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の意思に合わせての入浴、拒否がある場合は入浴時間をずらしたり、無理な時はシャワー浴や清拭、足浴と個々の希望に応じている	週3回午前中の中の入浴を基本に支援し、希望があれば柔軟に対応している。入浴剤や柚子湯等で楽しんでいる。体調により清拭や足浴・汚染時のシャワー浴を実施している。嫌がる場合は、時間を変えたり翌日に変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前は好きな場所でゆっくりと個人のペースでくつろいでいただき、その間見守り、巡視等を行なっている。入床後は照明、室温など気配りをおこなう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ファイルがあり、名前、顔写真で本人に確認をし、ファイル内の薬と薬剤情報を確認し、服薬マニュアルに沿って介助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々に施設内の清掃、盛り付けなどの役割を担って生活していただき、毎日のレクリエーション、毎月の行事に参加、散歩や買い物など気分転換を図っている</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>散歩やドライブに出掛け、ご家族にも協力を頂きながら、季節に合わせた外出行事に出掛け、地域との交流、行事（六月燈、おはら祭り）へも参加している。</p>	<p>散歩や近所におやつを買いに出かけたり、自宅訪問をしている。年間計画で花見やそうめん流し・六月燈・おはら祭見物をしてしたが、また墓参りや外食・外泊等で家族と外出していたが、コロナ感染症対策で受診同行以外の外出は自粛している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>財布を持っている利用者様には買い物の希望があれば職員と共に出かけ、支払いや好みの品を選んで頂き、ご家族への報告も行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>季節ごとにはがきを書いたり、希望時には家族と電話で話ができるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食堂の共有スペースに生け花、季節ごとの作品を飾り楽しまれている。毎日、室温・湿度を計測、室温調整をおこない、快適に過ごせるように工夫している。	リビングは換気を定期的に行い、室温・湿度計にて快適に過ごせるように調整している。季節の作品や写真を飾って季節感を味わえるようにしており、ソファが2ヶ所あり、利用者の相性等を考慮して席を配置したり、キッチンから料理を作る音や香りを楽しみながら、利用者は居心地よくくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの2か所にソファを設置し、自由に利用して頂く、食事の際も気の合う利用者様同士が同じテーブルで召し上がられるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人やご家族の要望を伺い、思い出の写真や品物を持ち込んで頂くことで、不安なく居心地の良い生活ができるように工夫している。	居室にベッド・洗面台・タンス・エアコンを備え、寝具はリースである。本人の必要に応じて、テレビやラジオカセット・チェスト・毛布を持ち込み、位牌や写真・化粧品等を身近に置いて、安心して過ごせるように部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、食堂、トイレは安全でわかりやすい動線になっている。わかりにくい場合には張り紙を		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない